

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	平成 30年 6月 25日	評価結果市町村受理日	平成 30年 10月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 30年 8月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台に、通所介護、高専賃、有料老人ホーム、支援ハウス、保育園等の施設が有り、施設間の交流もあり、敬老会、夏祭り、保育園の運動会など近隣の方や、子供たちとのふれあいがあり、喜んでいらっしゃいます。職員と利用者様がゆっくと会話を楽しめる時間として、食後の時間を大切にしています。職員一同、皆様が明るく、元気に楽しくその人らしく暮らせる様に支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

淡島神社の近くにある当ホームは、広々とした敷地の中に同法人の介護施設が隣接しており、日頃から行事は関連施設と合同で行いながら、保育園の子供たちや保護者、デイサービスの知り合いの方や地域の方と交流を楽しまれている。入浴は、毎日湯船に浸かることができるよう支援し、重度の入居者には、リフトを活用して職員が2人介助で安全に留意しながら入浴支援を行っている。運営推進会議は、年6回行われ、家族から、「年、2回参加をしたい」と申し出があり、順番に参加されている。運営推進会議には、民生委員・市職員・施設長・計画作成担当者・職員が参加されており、入居者の近況・行事報告・身体拘束について話し合いを行い、意見・要望を介護サービスに活かすよう努めている。食堂兼リビングでは、テレビを見ながら入居者の皆さんがゆっくと寛いでいる様子が窺える。食堂の窓からは、犬の様子を見て癒されたり、花木を眺めて季節感を感じる事ができる。また、共用グラウンドでは園児たちが遊ぶ様子を見渡すことができ、入居者の楽しみにも繋がっている事が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で自分らしく過ごす」という理念を掲げ頑張っています。今年度は「利用者様に寄り添って行動する」という目標を掲げ頑張ってます	事業所の理念は、玄関・事務所・リビングに掲げている。今年度の年間目標を、「入居者の気持ちになって行動できる職員になろう」とする事で、「入居者に寄り添って行動する」との目標を掲げて介護実践を行っているが、全職員が共有できるまでには至っていないように思われた。	事業所の理念を具現化するよう目標を立てられているので、更に職員一人ひとりが理念や目標を振り返り、入居者に関わる日々の介護実践時に意識付けをしてケアに取り組まれる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流は、行事に参加する事で声掛けをして頂いている。	同法人内保育園の運動会への招待により、福引きに参加したり、夏祭り・敬老会に参加する事で、施設間の交流を図り、地域の方と楽しく交流する事が出来ている。また、町の文化祭にも作品を出展したり見学に外出したりし、地域の方と触れ合う機会を設けたり、中学・高校生の福祉体験を受け入れる事により、地域に貢献するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事に数名だけでも参加するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	園の関連施設の見学、状況報告、自己評価や外部評価の報告、研修報告、などを行っている	運営推進会議は、年6回行われている。家族からは「年、2回参加をしたい」との申し出があり、順番に参加がまっている。会議には、民生委員・市職員・施設長・計画作成担当者・職員の参加があり、入居者の近況・行事報告・身体拘束についての話し合いを行い、介護サービスに活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の方や推進会議の担当者には、園内を見て頂いています	市職員の運営推進会議への参加により、ホームの取組みを知って頂き、それに対して意見・情報を得るようにしている。また、生活保護者の手続きや、情報を頂く事により、協力関係を築いている。グループホーム協議会主催の研修会へ参加するなどし、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、内部研修を行ったり、運営推進会議でも話したりしています。スピーチロックについても、気になっているが「待つて」という言葉は永遠の課題になっている	玄関は、施錠せず見守りにて対応している。運営推進会議・内部研修会・職員会議の際に、身体拘束の勉強会を行い、身体拘束についての認識を深め、拘束に該当する恐れがある場合の振り返りを行い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修を行ったりしているが、言葉がけには、まだまだ注意しなければならない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいらっしゃいません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対し説明は行っているし、要望も尋ねている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を利用しているが、ほとんど回答がない。他の関連施設で、聞いた時は連絡して頂くようにしている	家族には、面会時に入居者の状態を知らせ、話しやすい雰囲気を作り、意見や要望を聞くようにして支援している。毎月の園だよりは、入居者の様子を写真を掲載し、家族の楽しみに繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で情報交換、内部研修、行事予定、ケアプラン等話し合っている	管理者は、毎月の職員会議の際、入居者との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。職員の希望休は取得しやすいよう配慮し、資格取得や研修等の参加もスムーズにできるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思い通りに、運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格試験等受けるように声掛けしている。GH協会の研修等は、全員がどれかの研修を受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修や役員会議等での情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の入居者がほとんどであるが、他の居宅介護支援事業所からの相談もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は何時でも受け入れている。入所前については、面会したり、空き次第直ぐに連絡するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅ケアマネジャーを通して相談に来られる事がほとんどである		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の時間時間を大切にしているので、会話や歌を歌ったりして楽しんだり、レク等を通して教えたり教えられたり、している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室に関しては家族や、利用者様に任せている出来るだけ、面会に来て頂けるようにしているが、家族が遠方の方もいらっしゃるので、個人差が激しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんどない。通所介護の利用者様の中に、近所の人や、同級生の方もいらっしゃるの、面会して頂いている。	隣接しているデイサービスの友達・近所の方・保育園の保護者が面会に来られた際は、リビングのソファでゆっくり話をしてもらって支援を行っている。また、お盆には、家族対応で日帰り帰省をする支援も行っている。出来るだけ馴染みの人や場所との関係を継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支え合えるように声掛けしている。場合によっては、職員が間に入る様にしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさる方はほとんどが入院中に死亡なさった方で、入院中は、家族に声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても、返事が出来ない方もいらっしゃるが、出来るだけ、表情や行動で理解、把握出来る様に努めている。	それぞれの入居者の思いや希望は、日々の関わりの中での声掛けや行動・表情から汲み取り、把握に努めている。思いが汲み取れない場合は、家族に聞いたり生活歴から原因を把握したりし、見守りに対応し支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、本人が話せる方は、本人の意向を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、その日の体調や、心身の状態をみて、過ごし方を判断している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見と家族の意見を聞き、モニタリング表を作り、職員で話し合っている。	介護計画は、本人・家族の希望を聞いて作成されている。今年から内部研修の方法を見直し、入居者が抱える問題(気づき)を、職員それぞれが主体的に考える方法を取り入れ、課題を可視化しながら情報整理や支援方法の統一が図られている。課題を共通理解し、現状に合ったプラン作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事は、書くようにしているが、個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたい、墓参りをしたいとおっしゃる方は、家族の協力がある場合は、自由にして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通じて地域と繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院の電話番号をそのままかかりつけ医としている。また、園独自に愛野記念病院との関係を持ち、月1の往診が有り、急変時の受け入れを対応して頂いている。	入居者・家族希望のかかりつけ医を受診し、月1回、地域の病院からの往診もある。受診の際には職員が受診ノートを持参している。病状はボードに書いて職員に周知を図っており、適切な医療を受けられるよう努めている。また、病状をボードに書く事により、急変した際の受け入れ対応がスムーズにできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も、職員全員で行っているため、情報も職員全員で共有している。何かある時は、看護師に支持をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ、早く退院させて頂けるように、相談したり、面会の時は、地域連携室を尋ねるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、園が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	ホームでは入所の際に重度化・看取りについて説明されている。重度化に伴い、医師・家族・職員と連携して話し合い、医療行為が伴う直前まで支援され、医師の判断で病院に入院されている。現在、看取りの支援はされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは、ある 職員全員が普通救命講習を受講し、更新するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練は定期的に行っている。自然災害についても、話し合っている。	消防計画や防災計画は立てられている。昨今、自然災害が多発していることを踏まえ、防災計画も作成している。火災想定避難訓練を消防署立会・自主訓練にて実施されており、年1回は法人合同の総合訓練に参加されている。防災訓練(地震)を実施した際、一時避難場所について(上の駐車場にするか下の駐車場にするか)その後の避難場所が異なっていた。	自主的に地震の避難訓練を実施しているが、防災計画の職員への周知不足が窺える為、職員への防災計画の周知が望まれる。また、有事の際の避難経路を確認しておく事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになったり、厳しい声掛けになっている時があるため、注意する」様にしている。	管理者は、不適切な言葉遣いに気づいた時は、職員会議の際に注意するようにしている。内部研修でも接遇や言葉による拘束(スピーチロック)について話し合いが持たれている。職員より、無意識に尊厳を傷つける言葉を使用することがあった場合は、管理者が指導をされている。	慣れ合いになってしまっている場面があることを認識されており、今後、振り返りの機会が必要と思われる。「何が不敵な言葉掛けか」を外部研修会や内部研修会を通じ、職員が更なる意識付けを深めていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面を作っているが、重度化に伴い、決めることが出来ない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者の希望通りにすることはできませんが、出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれたものです。髪については、園でカットしたり、家族がカットされたり色々です。要望に応じて白髪染めも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じて出来る範囲のことを行って頂いている。	食事は、同法人の栄養士が栄養のバランスを考慮して献立を立て、入居者の状態に応じてトロミ食・キザミ食等を提供している。食器は軽い物にしたり、持ちやすい箸・スプーンを使用するべく自分で食べられるように配慮している。入居者の出来る力を活かし、職員と一緒に手伝ってもらおう事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とはいかないが、飲み物は何種類か用意している。家族が持って来てくださった物は、皆さんと一緒に頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けし、義歯のかたは、夜洗浄液につけるようにしている。出来ない方は、職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行っているので、尿意ない方も時間を見て誘導することで、トイレでの排泄が出来る様に支援している。	排泄は、日中はトイレ、夜間はポータブルトイレに時間を把握して誘導しており、介護用の布パンツと尿取りパットで対応している。これらにより、入居者の尊厳保持や、家族の経済的負担の軽減にも繋げている。入居者それぞれに応じた自立に向けた排泄支援となっている。また、汚物用の洗濯機は別に用意し、衛生面に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操と水分補給行い、便秘対策に取り組んでいるが、ほとんどの方が、薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方は、いらっしゃらないが、一人ひとりに合わせた入浴の支援を心掛けている。	入浴は、毎日実施している。入居者全員が毎日湯船に浸かる事が出来、清潔に留意しながらゆっくりと楽しむ事が出来ている。また、重度の方もリフトを使用しながら安全に入浴出来るよう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ、行事などを工夫する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、出来るだけ、季節や地域の行事に応じて戸外に出かけるようにしている。	重度化に伴い外出の機会が減る傾向ではあるが、気候の良い時は共用グラウンドにて散歩を行うなど、外気に触れる事によって気分転換を図っている。また、お盆の時期には、家族対応により外出し食事を楽しまれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理している。夏祭りや、自動販売機でジュースを買うくらいで、店で購入することはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをする方は、ほとんどいらいやらない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から有明海が見渡せ、近所も見渡せる。すぐ下にある広いグラウンドも見える	食堂兼リビングでは、テレビを見ながら入居者の皆さんがゆっくりと寛いでいる様子が窺える。食堂の窓からは、犬の様子を見て癒されたり、花木を眺めて季節感を感じる事ができる。また、共用グラウンドでは園児たちが遊ぶ様子を見渡すことができ、入居者の楽しみにも繋がっている事が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置いており、それぞれに応じて座って頂ける。居室にも、自由に出入りできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋づくりについては、家族にお願いしている。持ち込みも色々です。	居室は、洗面台・クーラー・ベッドが備え付けられており、入居者にとって使い慣れたテレビ・置時計・整理ダンス等の持ち込みができ、居心地良く過ごせるような部屋作りがなされている。また、整理整頓がなされ、掃除が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ配置や、補助具等を利用している。		